

安倍川総合土砂管理計画について

令和8年3月12日
静岡河川事務所

令和7年7月30日撮影

安倍川における現状と課題

安倍川流砂系では、各領域で土砂管理に関して様々な課題が存在している。

【各領域の課題】

○土砂生産・流出領域では…

- ・安倍川に沿って糸魚川-静岡構造線が走り、風化しやすい崩れやすい地質であるため土砂災害が発生しやすい。
- ・源流には日本三大崩れのひとつである「大谷崩」を有している。

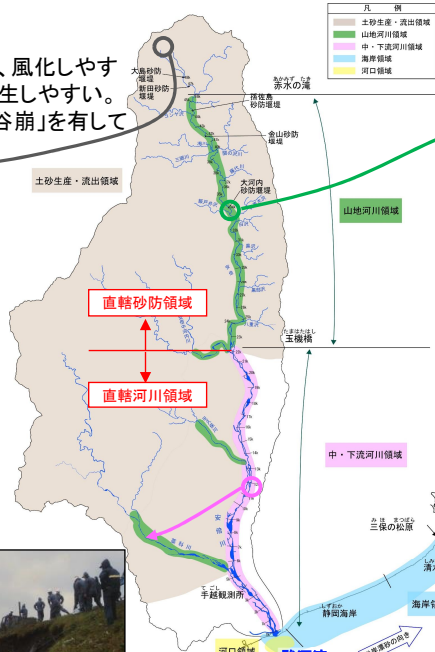


○中・下流河川領域では…

- ・上流からの土砂流出により河床が上昇し、流下能力が不足している。
- ・中小洪水においても、偏流により堤防や高水敷が侵食されるおそれがある。



H12.9出水による被災状況(左岸11.75k) S57.8出水による被災状況(左岸12k)



○山地河川領域では…

- ・河道部や砂防堰堤等の直下流において局所的な河床低下が生じている。



○海岸領域では…

- ・安倍川河口の左岸に広がる静岡・清水海岸では海岸侵食が進行している。



清水海岸の被災状況(H4)

○河口領域では…

- ・河口砂州の発達に伴う背水影響が生じるおそれがある。海岸への安定的な土砂供給が必要である。

「防災」、「土砂の連続性」の観点では、領域間で連携した流砂系一貫としての総合土砂管理が重要である。

安倍川における総合的な土砂管理の取組

<本計画の特徴>

1. 主要な地点において**具体的な数値目標(通過土砂量)**を示した**全国初となる計画**
2. 関係機関と連携して、**各領域毎に実施する具体的な事業を検討していくうえでの指針**となるもの

<計画対象期間>

土砂動態を評価する期間として、30年程度を設定



安倍川総合土砂管理計画フォローアップ委員会・作業部会(H26.12)を立ち上げ、R6.12.10に第3回委員会・作業部会を開催。**R7より、委員会と作業部会を統合。**

これまでのモニタリング調査結果等を踏まえ、土砂管理対策として民間の砂利採取量の上限拡大や、土砂動態の重要な役割を果たしている「河口領域」を領域区分に追加するなど、計画変更に向けた方向性について審議し、了承いただいた。**現在、一部改訂に向けて作業中**



土砂管理対策の実施状況(山地河川領域、中・下流河川領域における掘削量及び海岸領域への搬出量)

中・下流河川領域

H25年度以降、安倍川流砂系全体では、計画目標と同程度の毎年20万m³程度の掘削を行っている。

【山地河川領域】

単位: 千m³

採取者	区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
静岡県	安倍川	34.7	13.1	0	0	0	0	21.8	19.1	8.2	3.1	3.2	0.0
	その他(支川)	2.3	9.7	1.7	0	0	0	31.0	18.7	23.9	51.0	59.6	32.0
直轄	藁科川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.0	0	0
合計		37.0	22.8	1.7	0	0	0	52.8	37.8	32.1	62.1	62.8	32.0

【中・下流河川領域】

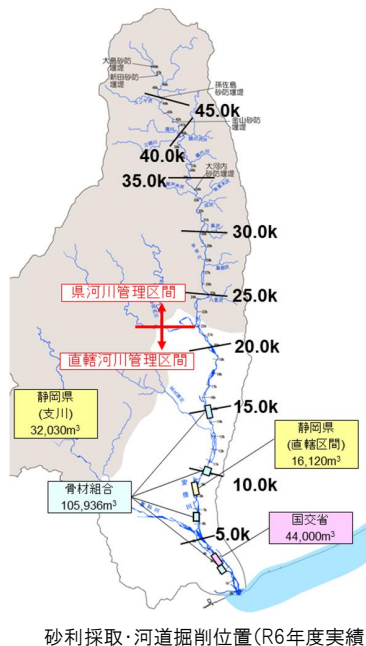
単位: 千m³

採取者	採取目的	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
骨材組合(重機)	販売	102.0	108.0	110.0	130.0	136.0	90.0	95.9	99.0	100.0	89.8	100.0	105.9
骨材組合(手拾い)	販売	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	0.6	0	0	0	0
静岡市	養浜(用宗・石部海岸)	10.0	10.0	8.0	10.0	8.5	9.4	5.9	7.7	7.4	6.0	5.0	4.0
静岡県	養浜(清水海岸)	52.8	80.0	98.5	37.3	12.0	55.0	17.1	75.4	55.1	48.3	10.8	16.1
直轄	一部養浜	20.1	0	0	23.2	15.0	20.0	108.0	178.5	89.7	20.4	30.8	44.0
合計		186.9	200.0	218.5	202.5	172.5	175.4	227.9	361.2	252.2	164.5	146.6	170.0

【海岸領域への搬出量】

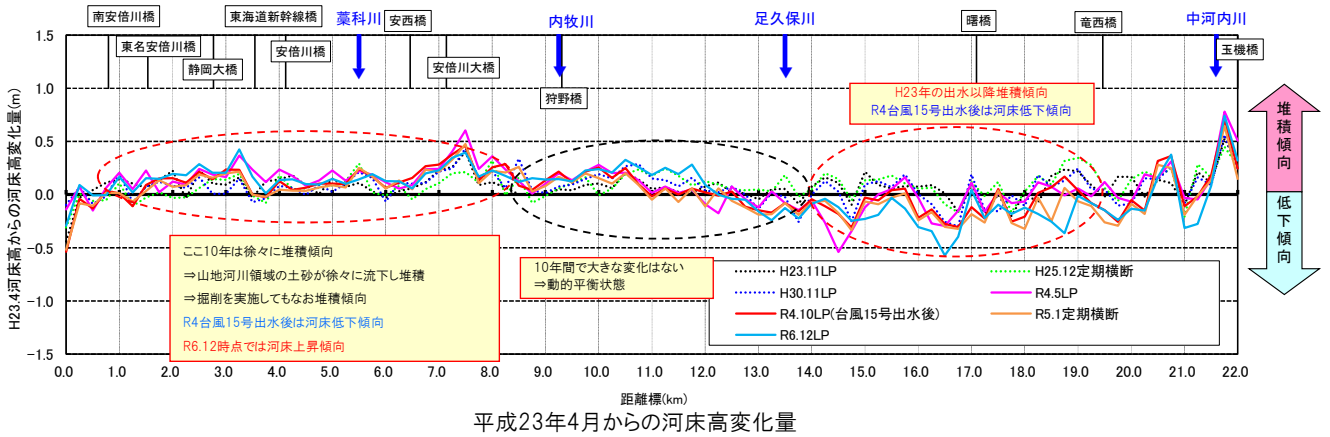
単位: 千m³

採取地	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
山地河川領域	34.7	13.1	0	0	0	0	0	0	0	21.2	42.6	26.8
中・下流河川領域	72.9	80.0	98.5	50.6	27.0	44.6	160.3	243.7	152.2	68.6	41.6	46.5
合計	107.6	93.1	98.5	50.6	27.0	44.6	160.3	243.7	152.2	89.8	84.2	73.3
中・下流河川領域 安倍川流砂系以外 (用宗・石部海岸)	10.0	10.0	8.0	10.0	8.5	9.4	5.9	7.7	7.4	6.0	5.0	4.0

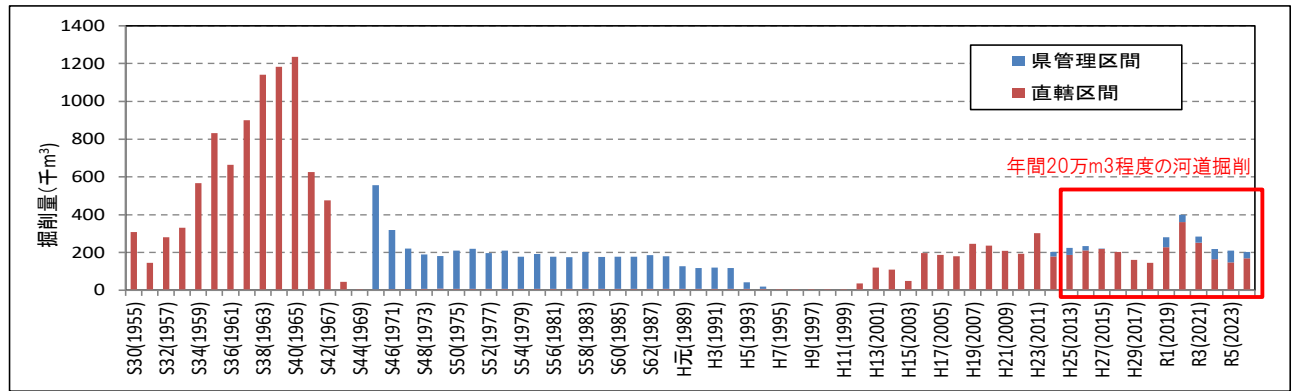


中・下流河川流域における河床高変化量、実績掘削量の変遷

● H23.4以降、中・下流河川領域では、下流部の河口付近は経年的に河床が高い状態が続いている。



平成23年4月からの河床高変化量



掘削量の推移

流砂系全体の土砂動態の評価[R2とR4の比較]

- 土砂管理指標を用いて、土砂移動の連続性、防災の観点から評価を行い、流砂系全体の土砂動態を整理した
- 安倍川本川の河床高は横ばいまたは、低下傾向の区間が多く、土砂管理指標の評価では土砂管理目標との大きな乖離はない
- 一方で堰堤直下の洗掘や、下流域の河積確保状況において防災上の問題が生じている
- 近年の出水により、支川河道の河床高が上昇しており、今後支川からの土砂供給量が増加する可能性がある

【凡例】河道内
直近R2.10~R4.12測量の河床変動高

河床上昇傾向	0.5m以上上昇
河床上昇傾向	0.1~0.5m上昇
安定傾向	-0.1~0.1mの変動
河床低下傾向	-0.1~0.5mの洗掘
河床低下傾向	-0.5m以上の洗掘

【凡例】土砂管理指標による評価

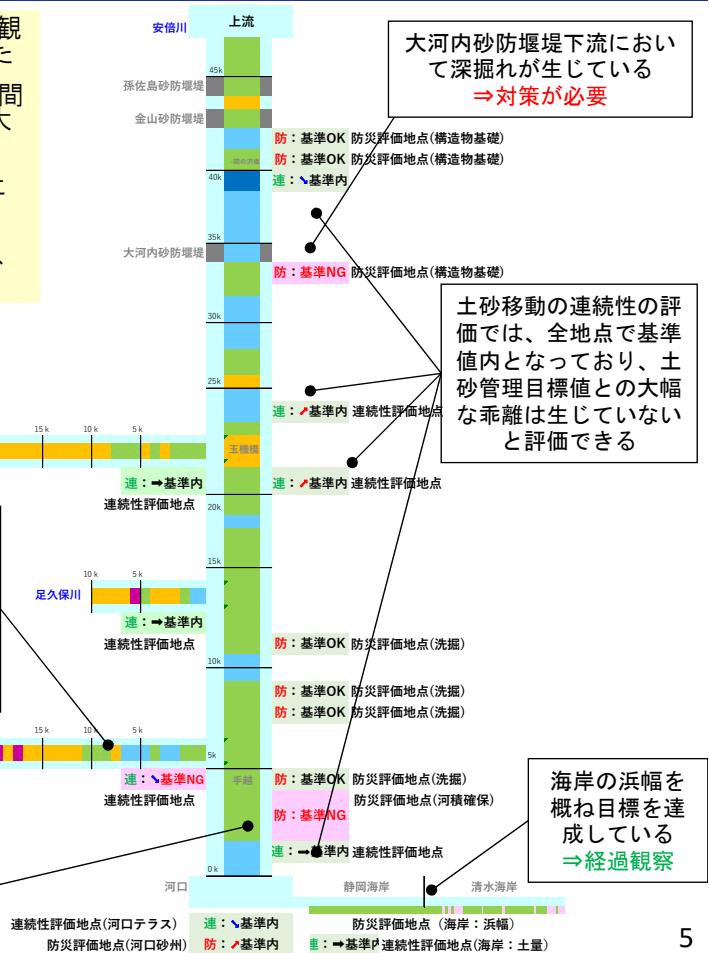
土砂管理指標が管理基準を満たしている
土砂管理指標が管理基準を満たしていない

防: 土砂管理指標による防災上の評価結果
連: 土砂管理指標による土砂移動の連続性の評価結果
直近の河床変動が上昇傾向: ▲、低下傾向: ▼

近年、薬科川の上流部において大幅に河床が上昇している (R4.9台風15号の影響)

薬科川(直轄区間)は河床低下傾向となっており、今後上流からの土砂流下による河床上昇が生じる可能性がある
⇒経過観察

4k下流では掘削を実施しているが、河床高は横ばい傾向であり、計画通りに河積を確保できていない
⇒対策が必要



流砂系全体の土砂動態の評価[R4とR6の比較]

- 土砂管理指標を用いて、土砂移動の連続性、防災の観点から評価を行い、流砂系全体の土砂動態を整理した
- 安倍川本川の河床高は横ばいまたは、低下傾向の区間が多く、土砂管理指標の評価では土砂管理目標との大きな乖離はない
- R4に大規模な河床上昇が生じた藁科川、中河内川はR4以降は河床低下傾向となっており、河道堆積土砂が下流へ流下している。

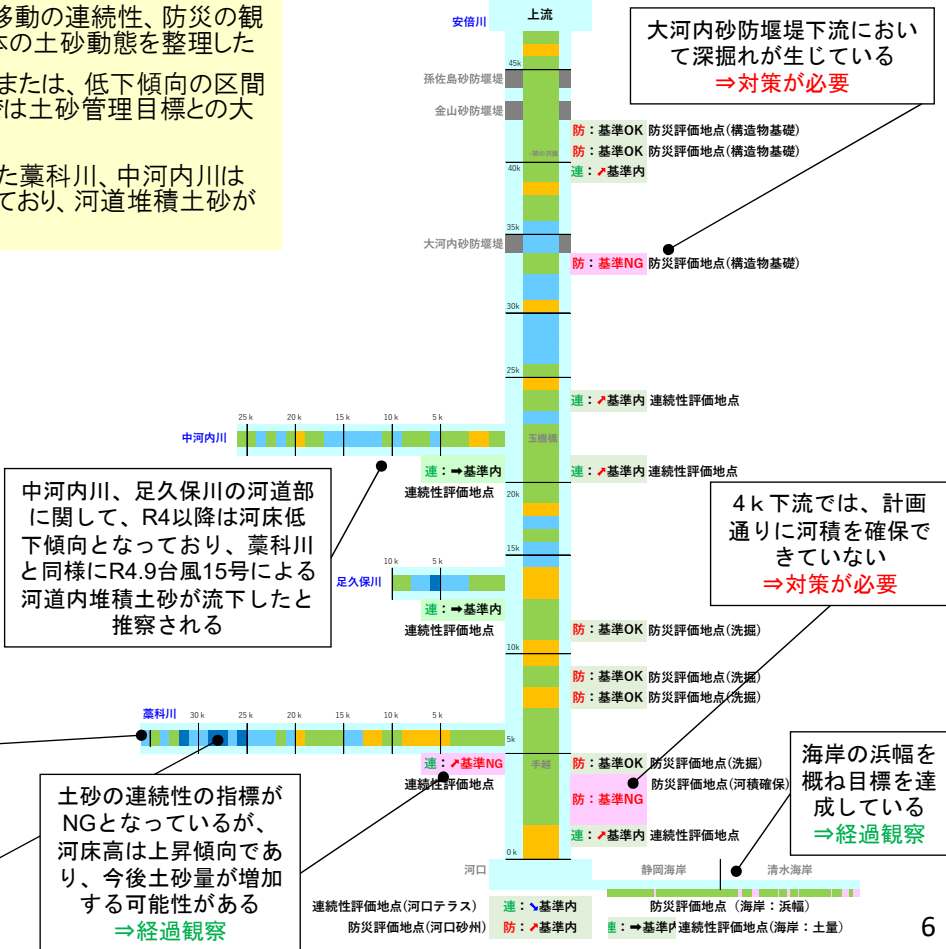
【凡例】河道内
直近R4.12~R6.12測定の河床変動高

河床上昇傾向	0.5m以上上昇
河床上昇傾向	0.1~0.5m上昇
安定傾向	-0.1~0.1mの変動
河床低下傾向	-0.1~0.5mの洗掘
河床低下傾向	-0.5m以上の洗掘

【凡例】土砂管理指標による評価

土砂管理指標が管理基準を満たしている
土砂管理指標が管理基準を満たしていない

防: 土砂管理指標による防災上の評価結果
連: 土砂管理指標による土砂移動の連続性の評価結果
直近の河床変動が上昇傾向: ▲、低下傾向: ▼



置土の試験施工の実施状況(河川、河口、海岸領域)

- R6年度より、掘削土の土砂還元に関する試験施工を実施している。R6年度には安倍川0.25k左岸付近に2,000m³の置土を実施した。
- 航空写真より、0.25kの置土はR7.5時点では流出していることを確認(流量約1,350m³/sで流出したと推察)
- R7年度は海岸領域への土砂還元を行い、土砂が流出する条件(波浪、置土高さ等)を把握する予定である。

置土の実施状況

R6置土箇所(安倍川0.25k左岸)

R7.2.25航空写真(置土設置後) → R7.5.11航空写真(置土流出後)

概ね1,350m³/sの流量が生起(手越水位2.5m、R5HQより換算)し、置土が流出

R7置土予定箇所(河口~静岡海岸)

項目	諸元
置土高	TP2.5m(波の打ち上げ高さより設定)
置土量	2,000m ³

土砂還元の試験施工の実施箇所

海岸の地形(R6.12LP)

置土の断面形状(予定)

安倍川NO.0

標高(T.P.m)

- : 標高~1
- : 標高1~2
- : 標高2~3
- : 標高3~

水位(m)

手越水位 置土流出

置土設置

水位(m)

岸沖方向距離(m)